

130周年のあゆみを未来への力に — 次なる成長ステージへの挑戦 —



代表取締役社長
亀津 克己



コーポレートキャラクター
ニコ



ニチアスは今年、創業130周年を迎えました。激動の時代を生き抜き、ここまで成長し続けてこられた一番の理由は何でしょうか？

130周年という節目を迎えられたことを、大変嬉しく思います。まずは、長きにわたり当社グループを支えてくださったお客さま、お取引先、株主・投資家の皆さま、地域社会の皆さま、そして国内外の従業員とご家族に心より感謝申し上げます。

1896年の創業以来、私たちは「断つ・保つ」®の技術を磨き続けてきました。事業環境は大きく変化しましたが、その時代ごとの社会課題や産業課題に向き合い、お客さまに必要とされる

価値を提供し続けてきたことが、130年という歴史につながったのだと考えています。

私たちの強みは、単一の製品や事業ではありません。「断つ・保つ」というコア技術を軸に、時代の変化に合わせて新しい市場へ挑戦し、幅広い産業に貢献し続けてきたことです。変えるべきものは変え、守るべきものは守る。その姿勢が次の時代においても成長の源泉になると確信しています。



現中期経営計画「しくみ・130」がいよいよ最終年度を迎えます。これまでの5年間の成果と手応えを教えてください。

● 中期経営計画スローガン



変化に対応する「しくみ」づくり			
し	しあわせ (幸せ)	従業員とその従業員を支える家族が幸福になる「しくみ」	「働きやすい明るい会社」
<	くふう (工夫)	現状に満足せず、課題解決のため部門を越えた工夫する「しくみ」	「前向きな思考・前向きな組織」
み	みらい (未来)	社会・環境の変化に適応しながら持続的な成長を目指す「しくみ」	「明るい未来を拓く」

この5年間は、単に業績を伸ばすための期間ではなく、「変化に強い企業体質」をつくるための準備期間でした。

事業ポートフォリオの見直しやROIC経営の導入、生産性向上のためのデジタル投資、人材への投資など、将来を見据えた基盤整備を進めてきました。結果として業績面でも過去最高水準を更新しながら、企業体質そのものを強化できたことは大きな成果だと考えています。

特に「しくみ・130」という名称に込めた思いでもある“し

くみ化”が進んだことを実感しています。個人の頑張りだけに頼るのではなく、組織として継続的に成果を生み出す仕組みを整備し、変化に対応できる足腰の強い会社へと進化することができました。

130周年はゴールではありません。むしろ次の成長ステージへ向かうスタートラインであり、この5年間で築いた基盤をさらに発展させていきたいと考えています。



中期経営計画「しくみ・130」の「し」には、「幸せ」という思いが込められているのですが、その幸せを実現する『幸せのしくみ』について、どのような取り組みを進めていますか。

私は企業の成長とステークホルダーの皆さまの幸せは表裏一体だと考えています。

中期経営計画「しくみ・130」における「幸せ」とは、従業員とその家族だけでなく、お客さま、お取引先、株主・投資家の皆さま、地域社会など、当社グループを取り巻くすべてのステークホルダーの皆さまの幸せを意味しています。

その中でも、価値創造の原動力となるのは従業員です。そのため、人事制度改革やエンゲージメント向上施策、職場環境整備などを積極的に進めてきました。また、私自身も各事業所に足を運び、従業員との対話を大切にしています。

一方で、エンゲージメント調査では、人材育成やキャリア形

成などについて経営層と現場との間に認識の違いが存在することも分かっています。これは決してネガティブなことではなく、組織がより良くなるための重要な気づきだと受け止めています。

大切なのは、その声に真摯に向き合い、改善につなげることです。従業員一人ひとりが成長を実感できる環境づくりを進め、「働きやすい明るい会社」をさらに進化させていきます。

そして、従業員の成長と挑戦が、お客さまへの価値提供や社会への貢献につながり、結果としてすべてのステークホルダーの幸せにつながる。そのような好循環を実現していくことが、「幸せのしくみ」の実現につながると考えています。



130周年という節目を超え、来年からは次の新しいフェーズが始まります。ニチアスはこれからどう変わっていくのでしょうか？

私たちは今、大きな転換点に立っています。

AIの進化、脱炭素社会への移行、エネルギー構造の変化、地政学リスクの高まりなど、企業を取り巻く環境はこれまで以上に変化のスピードを増しています。こうした変化はリスクであると同時に、大きな成長機会でもあります。

次期中期経営計画では、既存事業の競争力強化はもちろんのこと、将来の成長市場に対する投資を加速させていきます。また、これまで取り組んできた事業の選択と集中をさらに進め、資本効率を高めながら持続的な成長を実現する経営へと進化していきます。

次期中期経営計画の策定にあたっては、経営陣だけで議論を重ねるのではなく、全国の拠点で従業員との懇談会を実施し、さまざまな声に耳を傾けてきました。これからのニチアスに求められる変革や挑戦、働く環境のあり方、そして将来どのような会社を目指したいかについて率直な意見交換を行い、多くの気づきや示唆を得ることができました。

130年にわたり成長を続けることができたのは、現場一人

ひとりの力に支えられてきたからです。だからこそ次の成長ステージにおいても、経営と現場が同じ方向を向き、一体となって未来を描いていくことが重要だと考えています。今回の対話を通じて得られた意見や期待は、次期中期経営計画にも反映していきます。





次の成長を牽引する、半導体や次世代エネルギー分野、 新市場への投資や取り組みの「現在地」を教えてください。

半導体分野と次世代エネルギー分野は、私たちが重要な成長領域と位置付けている市場です。

半導体分野ではAIの進展を背景に世界的な需要拡大が続いています。一方、次世代エネルギー分野ではカーボンニュートラル実現に向けた社会実装が着実に進んでいます。こうした分野においても、「断つ・保つ」の技術は欠かせない存在です。

現在は事業拡大に向けた設備投資や技術開発、人材強化を進めており、次世代市場に向けた種まきを着実に進めています。

例えば水素分野への取り組みとして、浜松研究所に液化水素向け関連製品の開発を加速させるための液化水素実験棟を新設しました。液化水素はマイナス253℃という極低温環境での取り扱いが必要であり、高度な断熱技術やシール技術が求められます。実液を用いた評価・開発環境を自社で整備することで、液化水素向け製品・サービスの開発スピードをさらに高め、水素社会の実現に貢献していきます。

また、新市場への挑戦としてフュージョンエネルギー（核融合）分野にも取り組んでいます。当社はHelical Fusion社と資本業務提携を締結し、同社が推進する「ヘリックス計画」の公式パートナーとして参画しました。フュージョンエネルギーは、将来的にエネルギー供給のあり方を大きく変える可能性を持つ次世代技術です。その実現には、超高温・極低温・高真空環境を制御するための高度な断熱・シール技術が不可欠であり、当社が130年にわたり培ってきた「断つ・保つ」の技術を活かせる領域であると考えています。

重要なのは、単に成長市場だから投資するのではなく、社会課題の解決と当社の技術的優位性が重なる領域に経営資源を集中することです。

これらの取り組みを通じて、当社の企業理念である「『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献する」の実現につなげていきたいと考えています。



ニチアスグループではサステナビリティ経営をどのように推進していますか。 また、その実現に向けてどのような取り組みを進めていますか。

持続的な企業成長と中長期的な企業価値向上を実現するうえで、サステナビリティ経営の推進は重要な経営課題だと考えています。その推進の道しるべとして、昨年、理念・方針体系を整理し、サステナビリティ方針も新たに策定しました。

具体的取り組みとして環境面では、脱炭素社会の実現に貢献する製品・サービスの提供に加え、自社の温室効果ガス排出量削減や省エネルギー化にも取り組んでいます。また、生物多様性の保全活動なども継続的に推進しています。

社会面では、人的資本への投資を強化し、従業員一人ひとり

が能力を発揮できる環境づくりを進めています。さらに、安全・品質の向上を通じて、お客さまから信頼される企業であり続けることを目指しています。

ガバナンス面では、多様な視点を活かした経営体制の構築と、透明性・実効性の高い経営を推進しています。

これらの取り組みは、それぞれが独立した活動ではありません。私たちは事業活動そのものを通じて社会課題を解決し、持続可能な社会の実現と企業価値向上の両立を目指しています。



最後に、ニチアスを応援してくださる すべてのステークホルダーの皆さまへメッセージをお願いします。



創業130周年は、私たちにとって過去を振り返るための節目ではなく、未来への決意を新たに作る節目です。

ニチアスグループはこれからも、社会の変化を成長の機会として捉え、新たな価値創造に挑戦し続けます。そして、「断つ・保つ」の技術で社会に貢献するという使命を変わらず守り続けます。

企業価値の向上と社会課題の解決を両立しながら、次の10年、そして100年と、未来へ向かって歩み続けます。

今後ともニチアスグループへの変わらぬご支援、ご期待を賜りますようお願い申し上げます。